


## ■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

**\*** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

**CC** : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 学術俯瞰講義  
Copyright 2013, 丸山真人

The University of Tokyo / Todai OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series  
Copyright 2013, Makoto Maruyama

学術俯瞰講義  
「社会と倫理 — <人間>の限界を問う」  
2013年6月6日

人間経済の復権のために  
第9回 市場原理と生活世界  
丸山真人

# 1. 経済

- 経世済民（経国済民）
  - 世の中（国）を治め、民の苦しみを救うこと
- Economy (oikonomia = oikos + nemein)
  - (1) the principles of household management
  - (2) thrifty and efficient use of material resources

# 経済の二つの意味

- **欲求充足**に必要な物的手段の獲得
  - 生産と消費（自然と人間のあいだの物質代謝）
  - 欲求は物質的（衣食住）でないものも含む
  - **生活原理**（実体・実在的意味でeconomic）
- **稀少手段**の最適配分
  - 手段と目的（論理的関係）
  - 用途の合理的選択
  - **節約原理**（形式的意味でeconomic）

# アリストテレスの経済学

- 欲求について
  - 人間の欲求と必要は無限ではない。
- 富について
  - 富(=蓄積可能で保存のきく生活必需品)は、家(=オイコス)においては生活の手段であり、国家(=ポリス)においては良き生活(公共)の手段である。
- 制度について
  - 経済は、家や国家などの制度を構成する人間同士の関係に関わるものである。

# アリストテレスの示唆

- 節約原理よりも生活原理を重視
  - オイコスやポリスのように正しい諸制度が与えられ、良き生活に関する伝統的理解が与えられるなら、人間の経済に稀少性の要因が入り込む余地はない。
  - 稀少性が生じるとすれば、それは生活原理が十分に作用しない場合である。この時、節約原理が作用し始める。
  - 節約原理は生活原理を補完するもの。生活原理に取って代わるものではない。

# 生活原理と生活世界

- オイコスとポリスのマネジメント
  - 基本は自給自足 (self-sufficiency)
  - 自給できないものを交易で補完する
- 「足るを知る」
  - 節約は充足 (sufficiency) のため
- コミュニティの一員である生活者
  - 社会的威信・名声の追求 (単なる富豪ではない)
  - 社会的責務の遂行 (単なる納税者ではない)

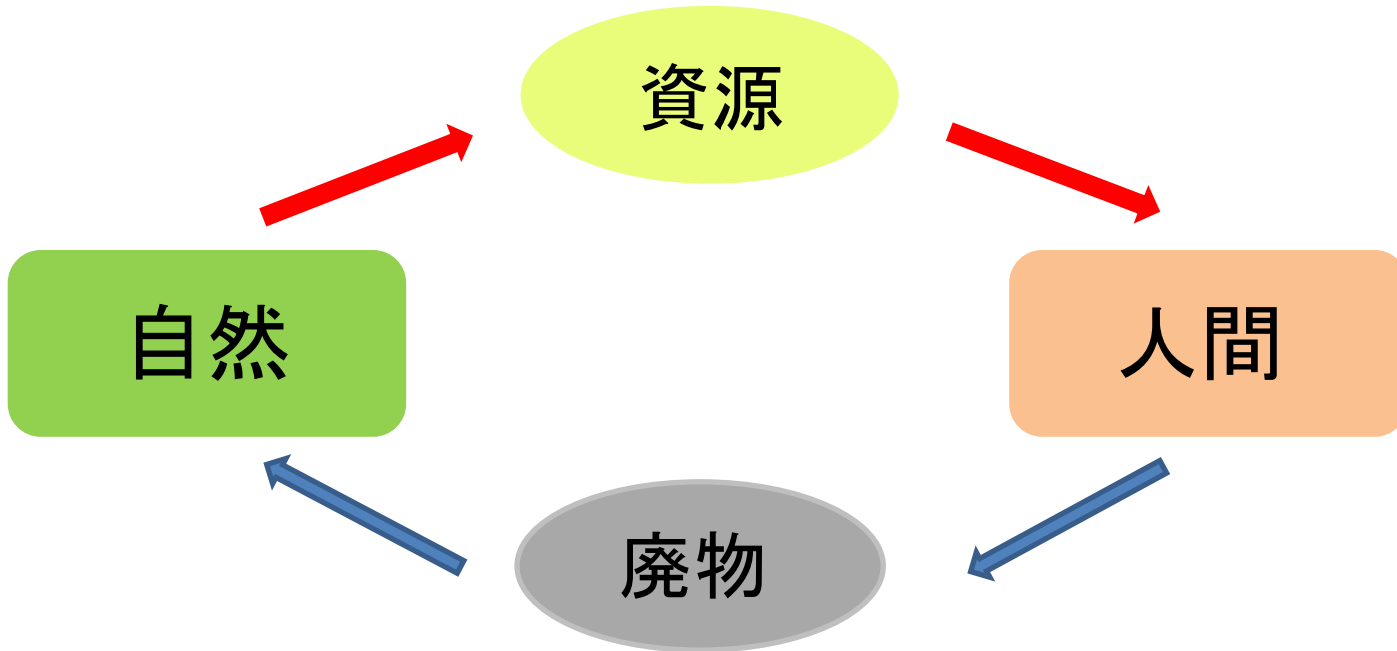
# ポランニーによる経済の定義

- 物的な欲求を充足するために行われる、人間と自然、そして人間と人間のあいだの、**制度化された相互作用**。
- この意味での経済は、あらゆる人間共同体のきわめて重要な部分を形成している。
- 経済人類学の課題
  - 人間とその環境との相互作用過程の分析。
  - 相互作用過程の制度化の分析。



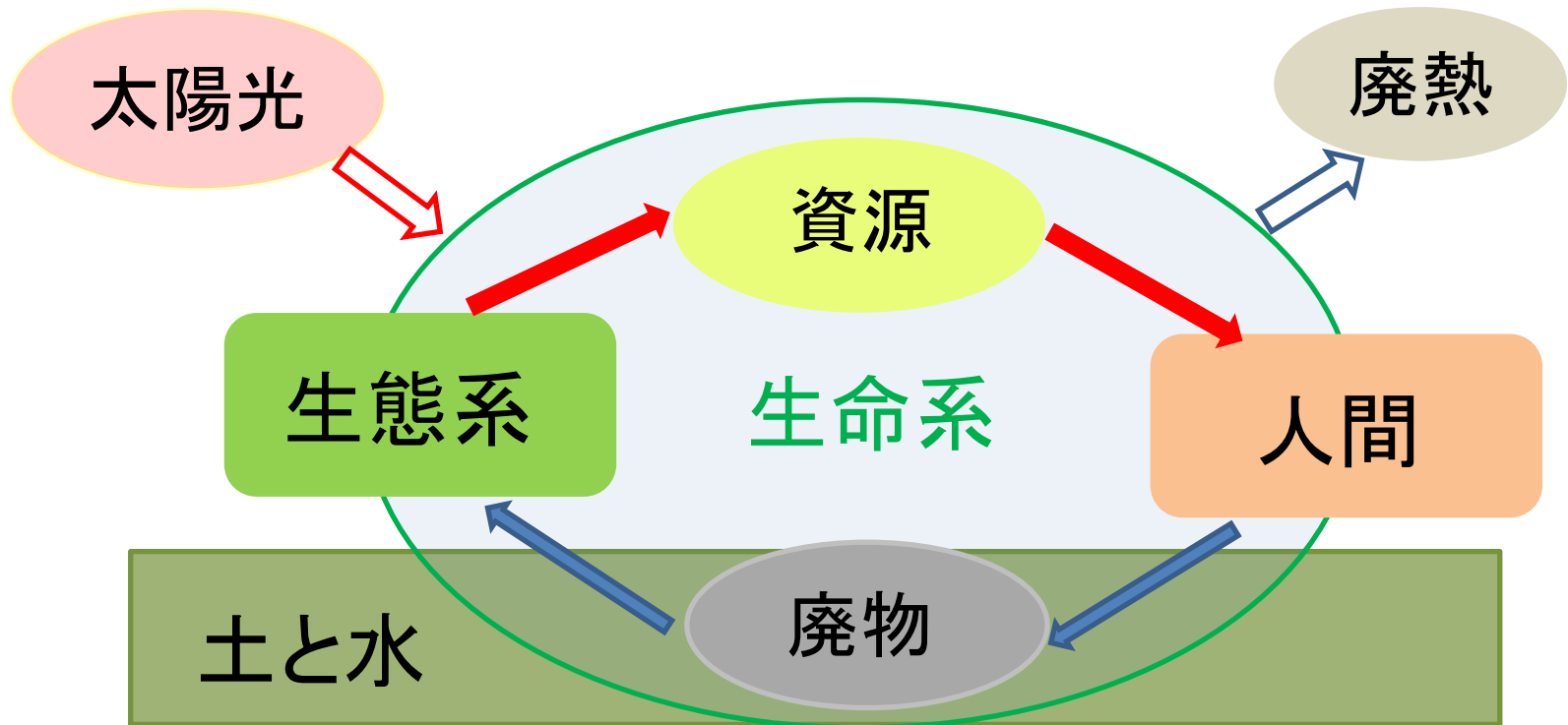
# 相互作用過程

- 人間の経済を、欲求充足のための物質的手段の調達ととらえると、その中心に位置するのは自然と人間のあいだの物質代謝である。



# 廃物・廃熱の処理

- 経済過程を持続させるためには、廃物・廃熱処理が欠かせない。



# 生命系

- 系内で発生する余剰エントロピー(entropy)を系外に主体的に廃棄することで生命活動を維持するシステム
  - エントロピーは熱・物質の拡散の度合いを表す指標。
  - 熱・物質が拡散すると廃熱・廃物(高エントロピー状態)になり使用不能になる。
  - 低エントロピー状態の熱・物質の使用可能性(使用価値ポテンシャル)は大きい。
  - 生命活動(エネルギーと物質の「消費」)と共にエントロピーは増大する。
  - 熱・物質の出入りのない孤立系では、エントロピーは増大する。最終的には熱死にいたる。

# 相互作用過程の制度化

- 相互作用過程の制度化により、経済は統合され、安定性、持続性が確保される。
- 経済統合の基本パターン
  - 互酬 (reciprocity)
    - 対称的に配置されたパートナー同士の贈与と返礼
    - 「自然の恵み」の享受と感謝
  - 再分配 (redistribution)
    - 中心部の chief と一般の people との間での納付と給付
    - コミュニティメンバー全員への富 (剰余) の分配
    - 富の源泉 (資源) の共同管理 (commons)

## 2. 市場

- 商品所有者同士の商品交換を目的とする制度
- 市場の諸類型
  - 遠隔地市場
  - 地域市場
  - 全国市場

# 遠隔地市場

- 対外取引を行う場所
- ある社会に存在しない財を外部から調達
  - 中世ヨーロッパ大市：香辛料、織物
- 統合された経済の外部に位置
  - 社会の内部とは制度的に遮断されている。遠隔地市場を抱える都市は、周辺の農村社会との自由取引が禁じられていた。

# 地域市場

- 地域内取引を行う場所
- 取引は地域の財に限定
  - － 食料品、加工食品、日用雑貨
  - － アテネのアゴラ、ダホメの地方都市
- 統合された経済の周辺部に位置
  - － 都市と周辺農村部
  - － 旅人、単身者の生活の拠り所

# 市場の部分性

- 近代以前の市場は経済の外部ないし周辺に位置していた。
- 近代以前の市場は生活必需品のすべてを包摂するものではなかった。
- 近代以前の市場はオイコス(生産=消費の場)を補完するものだった。
- 市場は経済統合の基本パターンとはならなかった。



# 全国市場の要請

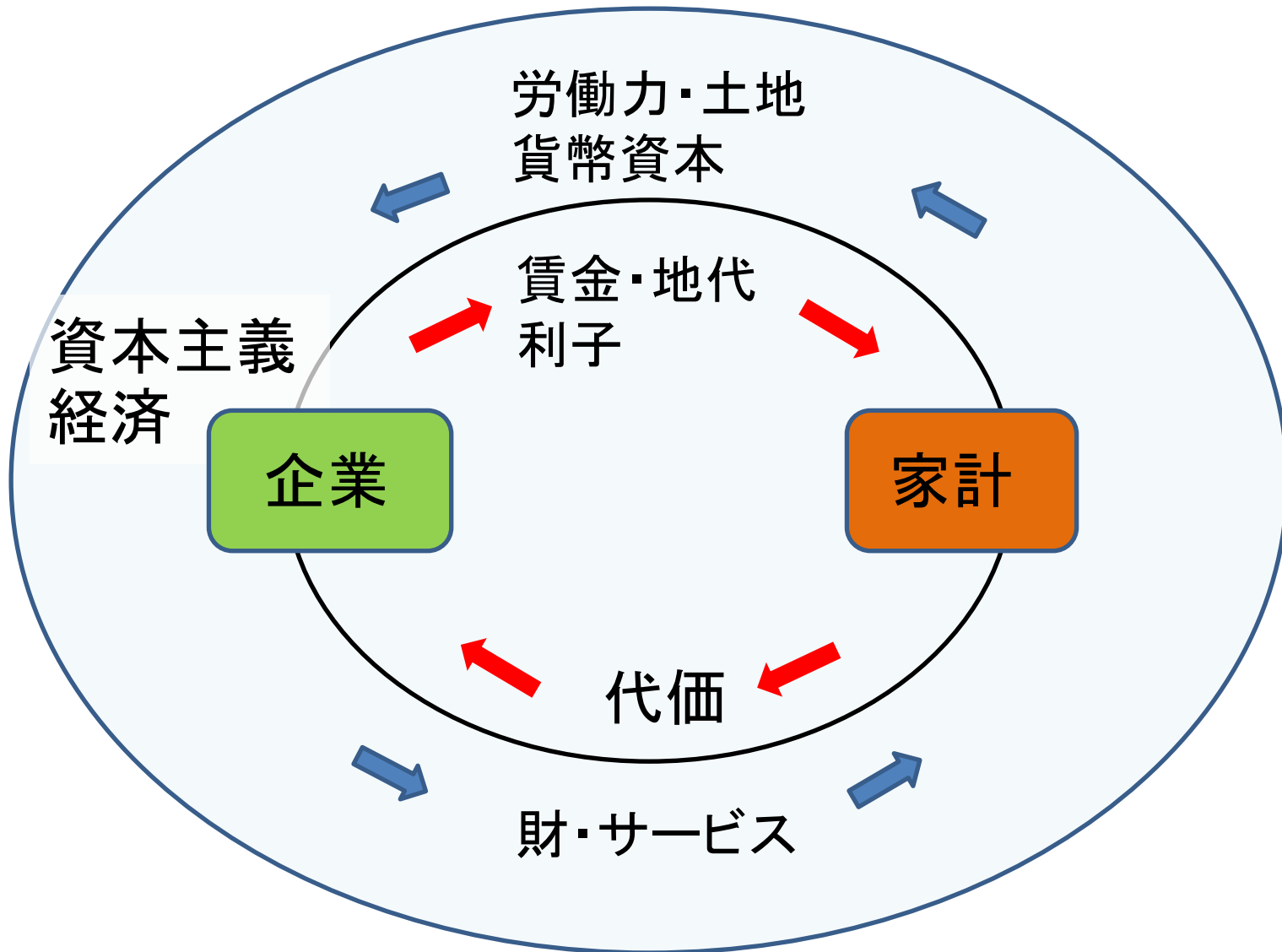
- 資本主義的卸売商人は全国市場 (national market) を要求
  - 同種の財を異なる源から互いに競争しつつ供給すること。
  - 自由取引の妨げとなる遠隔地市場と地域市場の隔壁、都市と農村の隔壁を除去すること。

# 全国市場の形成

- 産業資本家
  - － 商品生産に必要な生産要素(土地、労働力、貨幣)の調達のために、要素市場の自由化を要求。
- 国家的事業としての全国市場の形成
  - － 要素市場、遠隔地市場、地域市場の統合
  - － 自己調整市場システム・市場機構の出現

# 資本主義経済

- 人間の欲求充足に必要な生活手段すべてが商品化されている。
  - 自給自足による欲求充足を否定
- 生産要素(土地・労働力・貨幣)が商品化されている。
  - 自給自足のための生産手段を否定
- 人間の経済過程全体が、市場における商品交換によって制度化される
  - 市場による経済過程の自動調整



# 生産要素の供給源

- 商品化された生産要素
  - 人間は労働力商品の売手
  - 自然は天然資源の供給源
  - 貨幣は利子を生む源泉
- 生産要素の供給条件
  - 「産業予備軍」の恒常的存在
  - 「無限な自然」の存在
  - 「利子生み資本」の存在

# 資本主義経済の非自立性

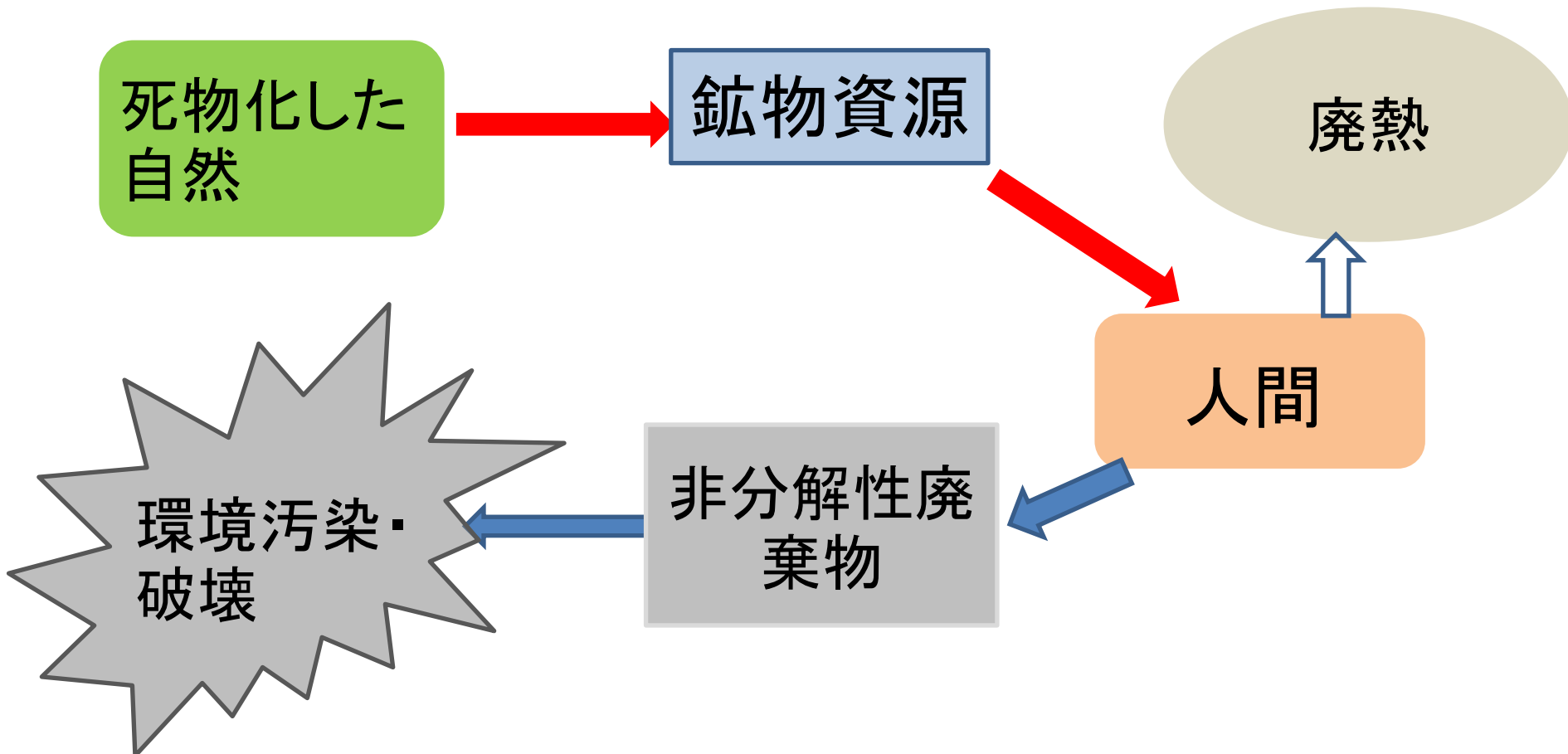
- 市場の自動調整作用によって経済が社会から離床しているように見える。
- しかし、生産要素（土地・労働力・貨幣）の市場への供給は、社会からの収奪なしにはありえない。
  - 失業者の大群、環境破壊、企業の倒産・買収
  - 社会は資本の本源的蓄積の温床
- 資本主義経済の社会からの自立は虚構である。

# 資本主義経済の物質的基礎

- 機械制大工業
  - 人間の機械への従属
  - 工業製品の生産
- 化石燃料・鉱物資源への依存
  - 石炭から石油へ
  - 原子力は石油文明の延長
- 非生命系
  - 生命系から自立しているように見える。

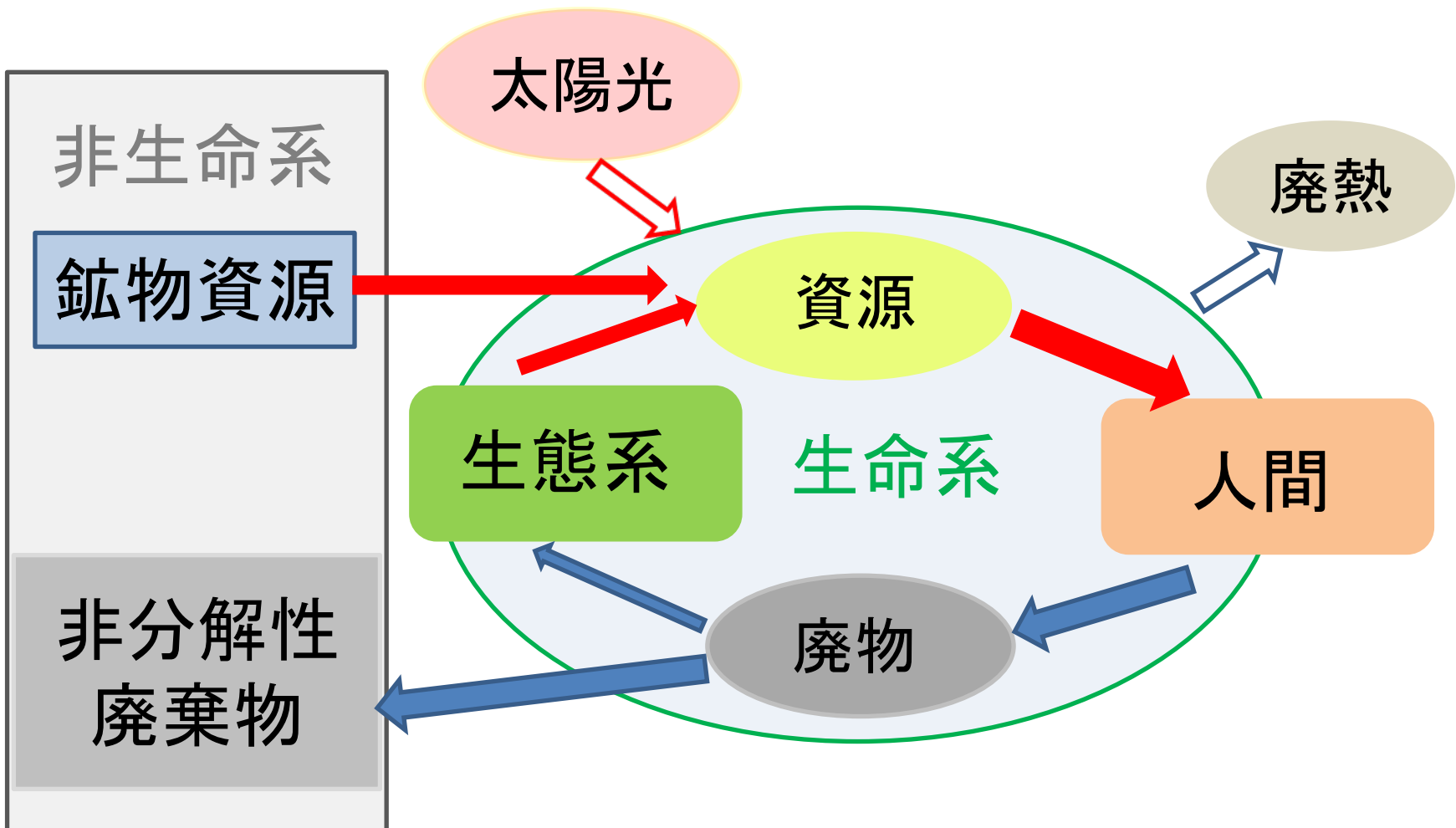
# 非生命系の経済

- 非生命系は廃物・廃熱処理機構を持たない。





# 非生命系は生命系に依存



# 自己否定する資本主義

- 資本主義経済は生産要素の供給に関して社会に依存している。社会への負荷を増やすことは資本主義経済の存立基盤をみずから否定することである。
- 機械制大工業は廃物・廃熱処理を生命系に依存している。生命系への負荷を増大させることは工業の存立基盤をみずから否定することである。

# 脱資本主義

- 資本主義経済による社会への負荷、生命系への負荷の増大は、人間の経済を破壊する。
- 人間の経済を持続可能にするためには、社会への負荷、生命系への負荷を減らすような経済体制が必要である。
- もし、資本主義に自己否定を克服する能力がないとしたら、われわれは脱資本主義への方向転換を図らなければならない。

# 【参考文献】

カール・ポランニー『経済の文明史』ちくま学芸文庫、第1章「自己調整的市場と擬制商品」、第8章「アリストテレスによる経済の発見」

カール・ポランニー『人間の経済』岩波現代選書、I、第2章「『経済的』という言葉のふたつの意味」

カール・ポラニー(ポランニー)『新訳 大転換』東洋経済新報社、第5章「市場パターンの展開」

玉野井芳郎『エコノミーとエコロジー』みすず書房、第1章「社会科学における生命の世界」、第2章「エコロジーを求めて」、第3章「エコノミーとエコロジー」